

鳥飼まちづくりランドデザイン住民説明会
議事録

日時：令和6年5月26日（日）

10:00～11:45

場所：新鳥飼公民館 2階集会室

【出席者】

■住民：24名（うち、オンライン参加者3名）

■運営関係者：

所 属		役 職	氏 名
摂津市	市長公室	公室長	平井 貴志
	〃	副理事	森川 護
	〃 政策推進課	参事	寺田 荘史
	〃 政策推進課	主査	関本 敏晴
	〃 政策推進課	主事	関口 貴史
	〃 広報課	課長	辻 亮輔
	総務部	副理事	辻 稔秀
	生活環境部	副理事	川本 勝也
	〃 産業振興課	課長	鈴木 誠
	建設部	副理事	寺田 満夫
	〃 水みどり課	課長	杉山 剛
	〃 道路交通課	課長代理	黒田 尚志
	教育総務部 教育政策課	課長	小西 仁

【議事次第】

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 資料説明
4. 質疑応答
5. 閉会

【配布資料】

- ・鳥飼まちづくりランドデザイン説明会 企業と住民の共存発展エリア 2回目
～エリアの将来予想や取組の方向性の確認及び今後の進め方（鳥飼東小学校跡地の利活用等）～

【質疑応答議事録】※質疑応答の区切りを、奇数回・偶数回で色分け。

●質疑応答

1	住民	<p>・この計画はまちづくりグランドデザインとして、50年100年先にどういうまちになったらいいのか考えようという話が元々あった。事の発端となった人口動向の資料が2057年まで具体的な数字で示されている。従って、地域ではどんどん人が減っていくことを前提にどうするかという話でスタートしている。その流れで具体的に話にあった鳥飼東小のR7年度末での鳥飼小との統合で、今回具体的に鳥飼東小跡地の利活用を紹介していたが、2057年度人口推計から見てもわかるが、一つの中学校と一つの小学校でも可能な児童生徒数になるという見込みが全てである。単にまちづくりグランドデザインがなければ、段階的に考えていくという話になるが、既にグランドデザインの計画がスタートして、その流れの中で鳥飼東小と鳥飼小の話が出ている。そうすると今回の説明会は、鳥飼全体を良くするという点で見ると、将来予測のもとに、今ここでどうするかというストーリーがないとこのグランドデザイン自体を議論するに及ばない。</p> <p>・今回の鳥飼東小の活用は、将来の鳥飼の学校の規模、今後二つの中学校と四つの小学校で合計六つの跡地が出てくるので、それぞれどう使うかという将来的な構想の中で、鳥飼東小はどうかということが出てくるはずである。それを踏まえると、今日の説明では鳥飼東小の跡地はどうするかということだけだったが本当にそういう説明でいいのかとを感じる。先々の他の小・中学校の動向、それがまちづくりにどう影響してくるのかを教育委員会ではどんな議論されているのか。</p> <p>・根底にあるのは、地域コミュニティが希薄になってきているという現状の課題を言われているが、将来的には地域が助け合って、企業と連携して非常に素晴らしいコミュニティが形成されるという前提で、協働という話をしていと思うが、衰退しているのを将来発展させようと思ったときに、今からどうアプローチをして、何が必要なのか。例えば、今自治振興課を中心に地域活性化に向けたまちづくり条例を作ってほしいと自治連から要望しているが、それに合わせてそのツールをベースに、どういう将来像を描いているのか。</p> <p>・鳥飼まちづくりグランドデザイン策定委員会の議論の中で、一旦エリア分けをすることになったが、エリアの現状や特徴を踏まえて対策を考えなければならない。また、学校があるかないかで人口動向が変わる。この学校の動向と人口の動向はリンクするし、そこに跡地の活用の構想があるのか。人の動きが重要なので、それを含めて市の中で、グランドデザインで示していたが、今日参列している部署ではもう構想があるのか。</p>
	市	<p>・今後学校の状況がどうなっていくのかはご指摘の通り、教育委員会としては2057年までの子どもたちの推計を考えていく中で、少子化は世の中の流れとして承知している。少子化だけにとどまらず、先日の報道ではまちが消えていくといった衝撃的な報道もあったが、我々教育委員会としては、子ど</p>

		<p>もの育ちや子どもの教育には色々な議論があるということは十分承知している。しかしながら、子どもの教育や育ちのためには何が必要なのか。最善の策を考えていくのが教育委員会の仕事だと考えている。そういった中では鳥飼東小学校だけにとどまらず、これから全体的に考える必要がある。摂津のまちを見ると、北側は人が増え、鳥飼地域や南側についてはなかなか人口増に繋がらないと把握している。教育委員会としては安威川以南の今後の子どもたちの推移、きちんとした教育の質が保てるような学校配置をしっかりと考えていかなければならない。そういった中では、今年度からその検討・調査等を進めていく。</p> <p>・ランドデザインとの整合性については、このランドデザインがないと我々としてはどのようなまちが作られていくのか、そこにどのような教育があるのか、子どもたちがいるのかについては、きちんとランドデザインを基に把握していると思っているので、今後の摂津の教育を考えていかなければならないと考える。</p>
市		<p>・協働のまちづくりの考え方は摂津市でも総合計画や行政経営戦略の中でもうたわれている。市職員で構成する条例の制定検討委員会を設置し、昨年度条例素案を策定した。その条例の素案を自治会・団体の皆様に示して意見を聞いている状況である。条例の中身については、まちづくりの主体である市民や団体、事業者による市民公益活動や地域活動を活性化して、まちづくりの担い手を増やし協働のまちづくりを広げていくことで地域の活性化を図っていきたい。条例の中には協働のまちづくりを推進する基本原則や、市民や団体、事業者、行政の役割と協働のまちづくりの推進に関する事項を定めている。今後市の指針となるものであり、行政と市民の皆様が条例をもとに考え、地域の活性化を図るため第三者機関の設置を条例の中で予定している。どういった方向で地域の活性化を図っていくのか、またそれが達成できているかを検証する仕組みを第三者機関で議論し、将来像として今後まちづくりを進めていくに当たって指針となるような条例である。</p>
市		<p>・委員会での議論は十分承知している。今回のように説明し、意見をいただき、修正することもできると考えている。今のエリア分けについては、ランドデザインをブラッシュアップしていく中で、議論されるべきものであると考える。ランドデザインの市の中での位置付けは、行政経営戦略の地域版になり、最上位としている。庁内の全分野にまたがる内容のため、庁内全体で検討・議論していく考えで取り組んでいる。議会でも活発な議論が行われ、意見をいただいている。職員についても、内容を捉えており、それぞれの場面でも常にこの考え方を踏まえて検討・議論している。また、職員は人事異動があるので、全管理職、部門の長を集めてランドデザインの内容の説明や取り組んでいる現状を全庁で一丸となって共有している。市民の皆様にはそのように取り組んでいることを知っていただければ非常に幸いと思っている。</p>

	住民	<p>・これから鳥飼の財産になり得るものは小学校の敷地だと思う。残念ながら鳥飼小と鳥飼東小だけの合併では済まないと感じざるをえない。同時にまちづくりはどう活用するのかは、次の投資の基本になるので、跡地の利用は次の投資に繋げるという発想がないといけない。どれだけの価値が見出せるのかという視点でもう一度見直しをすればまた違う発想が出てくる。エリアごとではなく、鳥飼全体の一つの起爆剤としての活用だと思っている。</p>
	住民	<p>・鶴野にある環境センター跡地を盛り土して子どもたちが遊ぶ公園を作ると言っているが、絶対無理だと思う。そして、大事な鶴野第二公園を中学生の給食センターとして活用したいというが、私達の自然の公園を地域の考えもなしに便利だからとか準工業地域だからとかで、公園がどんどんなくなること考えてほしい。小学校の跡地活用ということで、給食センターを建てたいのであれば準工業地域でもある鳥飼東小学校の校舎・校庭を利用した方がいい。校舎に関する説明はあったが、校庭に関してはなく、いずれは廃校になるので、その活用を考えて給食センターを作ってほしい。鳥飼の皆様にも理解してほしい。</p>
2	住民	<p>・説明会があることを2、3日前に知った。広く意見を聞くには早めに知らせないと来られない。特に子育て世代の人の意見を聞くためにはもっと早めに知らせるべきであり、これから住んでもらうための政策を考えるべき。生活するには稼がないといけない。雇用を増やすために企業と連携したら手取り早いですが、もっと先を見据えたこと、例えば農業地帯では人がどんどん出ていってしまい空きが出てくるし、食糧難時代に向かっているのをそこで給食センターとして使うなど考えるべき。人が密集している場所ではなく、空いている所、人が増えてほしい所に作ることは雇用を生むという観点でも大事である。</p> <p>・この地域は水害が起ると逃げ場がなく、避難する場所を大事にしてもらいたい。いくら発展しても水害の恐れがある場所に人は来ない。安心のもとに発展させて定着して住んでもらい、雇用も生む必要がある。</p>
	市	<p>・給食センターを鳥飼東小学校の跡地に活用するという意見があることは承知している。公園も地域の宝であり、統合によって生まれる鳥飼東小学校の跡地も地域の宝である。今中学生の昼食の喫食率が摂津でやっと10%になった。平成27、28年ぐらいから子どもたちはお弁当を選択制としてきた中で、お弁当も食べないで昼休みに遊びに出てしまう。お弁当を提供する業者も定価が上がり、喫食率が上がらない中で、全国的に中学校では給食を取る傾向が高いため、学校の中でできないか、跡地を活用できないかなど様々な形態について考えてきた。教育委員会としては、1日も早く給食を子どもたちに食べてもらうこと、給食は教育であることを使命としている。そういった中で、1日も早い全員喫食の中学校給食を提供したい。</p>
	市	<p>・説明会の周知については、広報せつつ、HP、地域の皆様に直接お話ししたりしているが、まだまだ足りない点もあると思うので、しっかり考えていく。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを進めていくに当たり、子育て世代の方の参加がこれからのまちづくりの中心となる。子育て世代の方の参加は非常に期待しているので、今後ワークショップなどでもどんどん意見をいただきたい。
3	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の説明会は、広報せつつでひと月ほど前に拝見して予定を入れているので決して突然ではない。いつも自治会で回覧物を回しているが、ものすごいスピードで返ってくる。読んでいるとそんなにすぐ返ってこない。回覧物を受け取った人が確認して回すので、他の家族が見る機会がない。特に若い世代で仕事をしている方は目にしないし読む暇もない。結局、情報は出しているが、行き渡っていない現実がある。自治体加入率は40%ぐらい、鳥飼西や鳥飼北は30%ぐらいであり、こんな状態で果たして十分な情報伝達ができているのか。皆さん必ずスマホを持っているので、興味のある方は摂津市のリアルタイムを個別ですぐ見られるようなやり方がいい。情報提供として印刷物は減らしていき、100%は無理だが、情報発信の仕方は従来の方法から見直さないといけない。住民側も情報を受け取りにいく姿勢が必要であり、情報を提供する側も改革が必要である。
4	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・跡地活用の事例紹介があったが、一つ一つはどれもいい活動だと思う。ただ、何か一つ摂津で実現しようと思うとそれに関係できない方が出てくる。事例5の大学は典型的な例である。子どものためだと教育から手の離れた方、新しいスポーツセンターだと高齢者は利用できるのか。私は多くの方が絡める場所にできるといいと思う。例えば、日曜日はスポーツができる場、平日は子どもが学校終わりに塾の代わりに通える学童だとか、曜日や時間などで分けて皆さんが利用でき、有事には避難場所として使える場所がいい。水害への対策だとか、ペットのために体育館を一部開放してドッグランにするなど幅広く考えることが多くの市民の賛同を得ると思う。すぐにでも実現しようとするともう時間がなき過ぎるので、市の方で方向性はある程度決めておくべき。もちろん市民の皆さんと意見交換はするが、ある程度こういうものをするということを決めておいた方がいい。市だけではなくて団体とかも協力し、市民から意見を受けて修正できる状態で一つの方向に向かっていくことを既にしていた方がいい。今頃何ができたらいいかという話をしていたら、手遅れで何もできない状態になる。市として活動するのであれば、住民ももちろん大事だが、摂津は企業が多く、協力してくれる所も多いと思うので、その辺りと協力した方が多くの理解を得られると思う。また、本当に時間がないので、数ヶ月単位で方向性を受けて走り出すぐらいでないで結局何もできずに終わってしまう。
5	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目から参加しているが、今日は一番人が少ない気がする。ここの会場はいつも少ない。 ・先ほど周知が遅いという意見があったが、今回は5月の広報紙に載っており、いつもより早いと感じた。ただ、記事が本当に小さい。今はたいがいスマホを持っているので、それで連絡してもらえればいい。 ・我々は後期高齢者で私もその中で役をしているが、水害に関しては、新在

		<p>家はほとんど土地が低いと思うので、避難場所をどこかに大きく作っていただきたい。例えば、高槻には南平台、日吉台といった高台があるが、摂津には高台がない。高齢になると若者ではないのですぐに逃げられない。</p>
	市	<p>・周知方法について、紙ベースだけでなく、皆様スマホをお持ちなので、LINE、HP、インスタグラムなどを活用してお知らせしていきたい。なお、LINEについては課題が一つあり、現状では市から全ての情報が伝わるようになっている。セグメント配信といって、興味のある項目を事前に登録し、その項目のみお知らせが来るといった機能を使って他市では実施しているので、本市も検討していきたい。</p>
	市	<p>・まず、言葉の説明だが、避難所は、一定の避難者が避難生活を送ることができる場所である。避難場所は、災害が起こった時に身の安全を確保するために逃げ込む場所である。緊急避難場所は、数日レベルの避難期間を想定しているため長期利用の場所ではない。</p> <p>・地震と水害の場合については避難に対する考え方が全く異なる。地震については、まずは安全な場所に身を移し、できれば建物が近くない公園、広場、グラウンドなどが望ましい。水害に対しての避難は鳥飼地域の方で経験した方もいると思うが、昭和28年の台風13号の時、この辺りは非常に長い間避難生活を強いられた。鳥飼地域は今後河川防災ステーション等もあるが、水害となると高い所への避難と考えるかもしれないが、淀川が破堤した場合には最大2週間水没し続けるという想定があるので、2週間高台の施設に避難し、食料も水もトイレもないような状態で2週間我慢できるかというところできない。近年特に鳥飼地域の方々に避難の形態としてお願いしているのが、広域避難という考え方である。淀川と安威川がともに破堤した場合、摂津市の市域の80%が水没する。特にこの地域は淀川と安威川に挟まれており、水がなかなか引かない。できれば水没を免れる地域に予め避難するような考え方が広域避難の考え方である。鳥飼まちづくりランドデザインでは、まちづくりはハード面の整備だけではなく、皆さんの災害に対する考え方、行動も含めてまちづくりであり、安全について、高台のまちづくりの整備を摂津市として全力を挙げて行っていくが、皆様も広域避難を心掛けていただきたい。鳥飼北小学校地域でキタッピあんしんマップを作り、鳥飼北小、二中等の生徒に配っているが、鳥飼北小学校区の広域避難についてのワークショップを行った活動報告である。これらを各小学校区で実施していきたい。今年度は鳥飼東小学校区で実施していく予定であり、広域避難について認識を深めていただきたい。</p>
6	住民	<p>・広域避難についてはよくわかる。ただ、ランドデザインでどうリードできるのか。例えば、いいまちづくりをやっても水浸しになれば何もなくなってしまう。4m~5m水没する可能性があり、何のための鳥飼地区のまちづくりなのか。例えば商業地域を作るとか、学校地域を作るとか、鳥飼東小学校の跡地をどうするかという問題があっても、水浸しになれば何も意味がなくなる。昔は河川の決壊などあったが、今は非常に確率が低いので、万が一の話</p>

		をあまり前面に出して言うのはどうか。淀川は堤防がしっかりしているし、安威川もダムができて対策されている。水没する確率の問題であまり強調したらいけない。ランドデザインのまちづくりでの合理的な問題は大事にすべきだが、こちらの問題をまずみんなでどうやっていくのかに重きを置くべきである。一番住民の意見が大事である。ランドデザインは大事だが、全部が全部一生懸命やるとできないことも当然出てくるからその辺の整理は必要になる。
	市	・これからも前向きに地域のまちづくりを行い、いたずらに市民の皆様へ危機意識だけを植え付けるのはいかながなものかという意見だと受け止めている。もし何かあった時にどうしたら鳥飼地域の皆様の命と財産を守れるのかというところは行政として何も考えてない、無策であるというのは有り得ない。確かに夢のある話だけをすれば、前向きになれるのだが、広域避難の話が現実的な選択肢になり得るという結論に至ろうとしている中で、市民の皆様に伝えず、行政だけが認識しているのでは市民の皆様の命と財産を守ることができないと考えているので、皆様の1人1人の頭の片隅に広域避難を持っていただきたいという思いだけである。いたずらに危ないということだけを伝えようとしているのではないことをご承知おきいただきたい。
7	住民	・今回の資料は踏み込まれていてわかりやすかったが、一点だけ、例えば公園のベンチが古くて汚いという意見があったが、ワークショップで銘木団地の方々と市民で考えて、若い人たちでどういうベンチを作りたいかのようなワークショップをする提案をしたいと思っても鳥飼まちづくり自体に予算がついていないが、今からでも予算をつけられるのか。
	市	・今年度のワークショップについての予算内訳は、ファシリテーターへの報償費 360,000 円、ランドデザイン推進にかかる経費として印刷製本費に 1,176,000 円、その他事務用品等に 242,000 円。合計 1,778,000 円を計上している。ファシリテーターの方など民間の力を借りながら進めていきたいと思っている。また、具現化していく段階であれば、さらに調達していく必要があると考える。
8	住民	・今日は鳥飼東公民館で行事があり、行きたくても行けない人がいるのもう少し配慮してほしい。より多くの参加者を募るのであれば、日程調整を慎重に行うべきである。次回は気を付けていただきたい。
	市	次回は配慮させていただく。

以上